

研修会等名称：大学生向けキャリア授業講師養成講座（主催：株式会社リアセック）

場所：名古屋（伏見クリエイトセンター）

期間：平成26年1月25日（土）

平成26年2月1日（土）

## 1. 研修の内容

本研修では、キャリア教育の導入・実施に関する経緯や近年の労働市場環境等を考慮し、実際に中部地区大学で実施されているキャリア教育科目のカリキュラムを参考に、講義の準備・構築・展開方法を体験的な研修手法によって学ぶことができた。キャリア教育の実施に際しては、以下のことに留意する必要がある。

### （1）キャリア教育の「本質」を理解する

現在、大学においては教育課程内外でキャリア教育が実施されている。しかし、その講義内容や効果については、疑問を呈するような事例も散見される。キャリア教育の導入・実施の目的を再考し、その趣旨に見合うカリキュラム編成や講義内容が求められている。18歳人口の減少や大学設置数の増加により、学生獲得競争が激化し、「出口」が大学教育の評価の重要指標となり、学生の就職決定状況を軽視できない環境にはあるが、「就職支援」と「キャリア教育」は、根本的にその性質が異なることを認識する必要がある。つまり、キャリア教育は就職支援だけではなく、学生のキャリア形成に対する積極的・主体的姿勢の促進であって、長期的観点に立脚した取組であると指摘できる。そのためにも、大学教育の中でキャリア教育が果たす役割を認識し、総合的に教育効果を向上させるようなカリキュラム編成が望ましい。また、グループワークなどのアクティブラーニングの導入も積極的に検討・実施されるべきである。

### （2）キャリア教育の「役割」について

キャリア教育の役割には、以下のことが考えられる。第一は、「動機付け（意欲）」の形成である。的確な動機付け（意欲）は学生の学習態度を主体的に変容させ、キャリア形成に対する前向きな姿勢だけでなく、大学での教育効果を高めることができると考えられている。また、これは学生の「労働に対する期待感」や「自らの価値観に基づく就業観」の形成にもつながり、卒業後の仕事に対する基本的姿勢になる態度や意識の形成に大きな影響を与える。この態度や意識は、入社後の企業等の研修では育成が困難であるとされている資質でもある。

第二は「能力」の形成である。形成すべき能力には「専門知識・専門技術」、「基礎能力」などがある。基礎能力には対人関係構築能力、課題発見解決能力などがあり、キャリア教育で育成すべき能力であるとされている。そして、その基礎能力の形成はキャリア教育だけではなく、専門知識や技術の修得過程によっても養うことができる。つまり、キャリア教育によって開発・形成された基礎能力は、専門知識や技術の修得過程によって、更に昇華される可能性があると言われている。キャリア教育だけでは、総合的な能力開発に限界があり、ここに大学教育における専門教育の重要性と意義が存在する。専門教育が適切に担保・機能することが、キャリア教育の効果をより高めることにもつながると考えられるのである。

キャリア教育と専門教育の密接な補完関係が、学生の「動機付け（意欲）」と「能力」を形成する重要な機会となる。その機会が確保されていることが、学生の教育効果を高めることになり、その結果として学生の就職状況に反映されるのである。就職支援のような「就活スキル」は、キャリア教育と専門教育の補完関係の中で養われた能力や姿勢の上において、はじめて活用されるスキルであると言えるであろう。

## 2. 研修の成果

本研修での成果として、以下のことがあげられる。

### (1) 学生の理解度を高める講義展開手法の再確認

キャリア教育の効果を向上させるため、講義を受講する学生の設定を明確にすることが望ましい。対象学部や学年、必修科目か選択科目、学生の関心度や知識などに違いが見られ、一定の母集団の形成は不可欠である。授業プログラムにおいては、①テーマ、②目的、③内容、④進行手順、⑤ゴールの基本的順序に従ったプログラムを構築し、常にその意図や関係性(つながり)に配慮することが重要である。授業を通じて、学生に「何を届けるのか」という意識を持ち、授業の中に関係性を意識的に配置することで、体系的な理解を促進させることにつながる。また、キャリア教育の場合は、大人数を前提にした講義(レクチャー)形式の教育方法では限界がある。そのため、少人数から中人数を前提とした設備等の環境整備とグループワークなどのアクティブラーニングとの相性の良さを考慮する必要がある。

### (2) キャリア教育を担当する教員に求められる能力の理解

キャリア教育を担当する教員に求められる資質として、①プログラム開発力、②シナリオ構成力、③協働性志向、④相互学習志向、⑤ファシリテーション能力などである。学生の状況に応じて、求められるキャリア教育も変化する。学生に適した独自のプログラムを開発し、カリキュラム全体の展開・構成力が必要であり、他大学の導入事例を模倣しているだけでは不十分である。また、教育方法として、学生の相互学習や協働性に重点を置いた講義運営やアクティブラーニングの導入も考えられるため、的確なグループ運営を行うことができるファシリテーションスキルを身に付ける必要がある。そして、キャリア教育と就職支援は性質的には異なるが、連携することで相乗効果が期待できることから、就職支援などにも精通していることが求められる。

## 3. 授業への研修成果の反映状況

授業への研修成果の反映状況として、以下のことがあげられる。

### (1) 講義シラバス及び講義内容の見直し

キャリア関連科目の講義シラバス及び講義内容について、意図や目的、関係性を意識したものに再構築する。また、学生の講義姿勢を主体的にするため、配布資料等は学生自らが作業する部分を設けるなどの工夫を凝らした教材開発を行う。

### (2) アクティブラーニングなどの実施

グループワークなどを積極的に活用し、学生参加型の講義方式によって、学生の動機付け(意欲)や基礎能力の形成を促進させ、教育効果の向上を目指す。これらのことは卒業後の進路決定に際し、積極的・主体的姿勢を養うことにもつながり、キャリア形成において、「正」の影響があると考えられる。

### (3) 積極的な「質問」の活用

学生の教育効果を向上させる手法として、能動的な授業参加を促すような「質問」がある。講義導入部分や課題の振り返り、体験の相互共有などには、積極的に学生に質問を行うようにする。

学部長	FD委員長	FD委員会	名古屋教務課長	係